

入学式は立派だった！

鶯の鳴き方が上手になってきた。新学期が動き出した。新しい環境にあれこれと行事があり、疲れもあると思う。2・3年生も同様だろう。疲れをとる最も効果的な方法は、やはり睡眠だ。少しでも早く床に就き、疲れを癒して、次の日の朝の目覚めが少しでも良くなるよう、生活のリズムを作りたい。年度当初にこのリズムを作ってしまうと、遅刻もせずに済む。「遅刻ゼロの高校に私たちはなる。」だから。

4月10日は着任式、1学期始業式、そして第49回入学式があった。着任式では新たに本校のスタッフに加わった強力なメンバーを紹介することができた。生徒会による歓迎の言葉も立派だった。始業式の後の校務分掌発表では、あちこちで歓声があがっていた。サプライズもあったからだろう。新たな出会いは人を成長させるし、新たな自分を見つけることにもつながる。このご縁を大切にしよう。

午後に行われた入学式では、新入生の皆さんがこれまでの入学式に勝るとも劣らない立派な態度で臨んでくれた。返事が良かった。態度が良かった。来賓には、東、四郷学院、花田、城山各中学校の校長先生も来てくださっていたが、「高校の制服を着ると随分立派に見える。ついこの間まで中学生だったとは信じられない」とも仰っていた。これからは、見た目だけでなく、中身も成長できるようにしていきたい。

本校には大切にしている学校文化があり、生徒の皆さんが大切に育てている。

- 1 笑顔で自然に挨拶し、丁寧な言葉遣いができる
- 2 爽やかに美しく制服を着こなす
- 3 履物を揃える
- 4 5分前に集合し、生徒自身で点呼・整列が完了する
- 5 自ら進んでボランティアに取り組む

2・3年生は引き続き、1年生もこの学校文化を大切に、自らを成長させていってほしい。

ヘルメットも習慣化できれば・・・

4月11日京都新聞の記事によると、「9日午後1時20分ごろ、京都府京田辺市田辺田出原の自転車道『本津川サイクリングロード』で、奈良市の無職男性（62）の自転車と、同市の会社員女性（44）の自転車が正面衝突した。男性が頭を強く打って死亡した。女性は頭や肩を打ったが命に別条はないという。男性はヘルメットをしておらず、女性はヘルメットを着用していた。（<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/1005456>）」4月から道路交通法の改正により、自転車乗車時におけるヘルメットの着用が努力義務となったのは、知っているだろう。始業式の後の生徒指導部長からの話にもあったように、他人事ではない。「自転車乗用中の交通事故で亡くなられた方は、**約6割が頭部に致命傷**を負っています。また、自転車乗用中の交通事故においてヘルメットを着用していなかった方の致死率は、着用していた方に比べて平成30年から令和4年までの5年間の合計で**約2.1倍**高くなっています。

（警視庁HP：<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/anken/toubuhogo.html>）

TPOを考えた行動は、社会に出るための重要な準備になる。自転車乗車の際のTPOがまず「ヘルメット着用」であってほしい。将来的には、原付バイクが1986年にヘルメット着用義務化されたように、義務化される可能性が高い。また、保険もヘルメットを着用していなかった場合、減額される可能性がある。私たちはその前に、強制される前に、自主的に「ヘルメット着用」に取り組みたい。何よりも大切な命はリセットできない。4月23日は、本校にとって忘れられない日なのだから・・・。

黒田官兵衛は御着に縁がある I

JR御着駅前に「水五訓」を記した看板がある。これは、戦国時代別所町にあった御着城の家臣でのちに歴史を動かす原動力となった黒田官兵衛が大切にしていた考え方だ。「水の如く」生きることを大切にしていた黒田官兵衛は、のちに黒田如水と自ら名乗るようになる。

これから5回にわたってその一つひとつを見ていくことにする。

「一、自ら活動して他を動かすは水なり（自分から動いて他を動かせるものは水である。）」水は自らが動いて周りを動かし、ものを運んでいく。強制するよりも、自ら範を示して自らから動くことで周囲を引っ張っていく人になることが大切だと教えてくれる。「挑戦」にもつながる言葉だ。

We keep on trying. 挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校に私たちはなる 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩